

IGF第10回会合 政府部門の動向

平成28年1月28日

総務省 データ通信課 企画官

菅田 洋一

IGF第10回会合(日程・会場)

11月9日 (月) DAY0	10日 (火) DAY1	11日 (水) DAY2	12日 (木) DAY3	13日 (金) DAY4
ブラジル 政府主催 ハイレベル リーダーズ 会合 等	期間中に約160のセッション			
	開会式			閉会式
プレ イベント	IGF第10回会合			

会場: ジョアン・ペソア(ブラジル/パライバ州)

IGF第10回会合(参加者)

- 116か国から約2400名が参加。
- 総務省からは阪本総務審議官他3名。
- 開発途上国のハイレベルも熱心に参加。
- 参加した企業関係者は、21世紀フォックス、アマゾン、シスコ、フェイスブック、グーグル、ファーウェイ、IBM、インテル、マイクロソフト、サムスン、ツイッターなどから約280名。

IGF第10回会合（開会式）

- 10か国・地域の政府及び諸団体の関係者が
ステートメントを発表。
- 阪本総務審議官によるステートメントの要旨
は以下のとおり。
 - IGFが果たしてきた役割を高く評価する。
 - IGFの現在のマンドートを維持しつつ、10～15年延長
することが望ましい。
 - インターネット・ガバナンスについては、情報の自由な流
通及びマルチステークホルダー・アプローチが重要。
 - ICANNにおいて議論されているIANA機能の管理移管
を歓迎、その早期の実現を期待する。

IGF第10回会合(その他のセッション)

■ WSIS+10のセッション

セプルヴェダ米国国務省大使等が成果文書のサイバー犯罪の国際法に関する記述等について問題点を指摘。

■ IPv6のセッション

ベスト・プラクティスとして我が国の「IPv6によるインターネットの利用高度化に関する研究会」の取組が報告書に盛り込まれた。

ハイレベル・リーダーズ会合

- 14か国・地域の政府及び諸団体のハイレベルがステートメントを発表。
- 阪本総務審議官によるステートメントの要旨は以下のとおり。
 - 地球規模課題を解決する手段としてICTを積極的に活用すべき。
 - そのために各国がベスト・プラクティスを共有すべき。
 - マルチステークホルダー・アプローチの実践が重要。

各国ハイレベルのステートメント(ポイント)

マルチステークホルダーを重視

(日本)

情報の自由な流通及びマルチステークホルダー・アプローチが重要。各国がマルチステークホルダー・アプローチを実践し、ベストプラクティスを共有すべき。

(米国)

国家はデータの流通を制限すべきでない。マルチステークホルダーによる現在のインターネット・ガバナンスを維持すべき。

(欧州委員会)

マルチステークホルダーによる現在のインターネット・ガバナンスを維持すべき。IANA機能の管理移管をマルチステークホルダー・アプローチの成功例にすべき。

政府の役割を重視

(ブラジル)

各国がインターネット・ガバナンスに対等な立場で参加できることが重要。幅広い関係者の参加を得るためにも政府の役割が必要。マルチステークホルダーとマルチラテラルの両方のアプローチの実践が重要。

(中国) ※次のスライド参照

インターネット・ガバナンスには国家主権が適用される。他の国に干渉すべきではない。

(ロシア)

インターネット・ガバナンスは特定の1か国ではなく、国際社会に委ねるべき。プライバシーの保護はそれぞれの国がそれぞれの事情を踏まえて取り組むべき。

(参考)世界インターネット大会の概要

1. 開催概要

- 開催期間: 2015年12月16日(水) ~ 18日(金)
- 開催地: 烏鎮(中国浙江省)
- 主催者: 中国サイバー空間管理局(CSC)・浙江省政府
- テーマ: 「コネクティビティ、共有・共同ガバナンス—サイバー空間運命共同体の構築」
- 参加者: 習近平国家主席、8か国の政府首脳等(ロシア、パキスタン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタン、コンゴ(民)、トンガ)及び企業の代表等を含む約2,000名が参加(約半数は中国の関係者)。

2. 習近平国家主席の基調演説(12月16日)要旨

- グローバルなインターネット・ガバナンス体系の変革を推進するにあたり依るべき原則として、①サイバー主権の尊重、②平和と安全の確保、③開放と協力の促進、④良好な秩序の構築の4点を提唱。
- サイバー空間における運命共同体の共同構築に向けた取組として、①グローバルなネットワーク・インフラの建設加速、②ネットワーク文化の交流プラットフォームの創造、③ネットワーク経済のイノベーションによる発展推進、④サイバーセキュリティの保障、⑤グローバルなインターネット・ガバナンス体系の構築の5点を主張。

3. 成果文書(ポイント)

- 成果文書として以下の内容を含む「烏鎮イニシアティブ」を発表。
 - ①インターネットの普及・発展の推進、②サイバースペースにおける文化的多様性の育成、③インターネットの発展の恩恵の共有、④サイバースペースにおける平和及びセキュリティの確保、⑤グローバルなインターネット・ガバナンスの向上。



御静聴ありがとうございました。